

新生児（生後2ヶ月）の涙、目やに

2004年12月10日(金)

生後2ヶ月にて涙、目やにの症状がでて来院、病院での検査も受け、改善されなければ涙腺の外科的処置を試してみようとの指導を受けたとのこと。

ご両親も外科的処置には抵抗があり、ファミリーカイロの治療で改善されないものかと受診して下さいました。

検査では光に対しての過敏反応があり、段階的に、日光、紫外線、テレビなどの画面の光、暖房などに対しての過敏反応が表れた。

4回目の治療を施し、徐々に改善しているようだ。

新生児を検査・治療していて感じるが、生まれてすぐに皮膚が過敏だったり、呼吸器系が弱かったり、便通の出が悪かったりと様々な障害を抱えてそれぞれに特徴を持つ。

お腹にいるときから、西洋医学の検査でも分かるような疾患を抱えて胎児もいる。

なぜそのように異なる部位に異なる症状が生じるのか？

胎生学的にも子供は臍の緒1本で繋がれているそのことから考えても母親からの影響は大きく、母親から血管を通じて栄養素だけを供給しているのではなく、目には見えない生命エネルギーの情報交換も行なわれている。

その「情報」は遺伝子レベルまでに記憶され、様々な環境に適応できる抵抗力を備えるだろう。

例えば、食に対して好き嫌いの強い母親には、食アレルギー等を引き起こし易い子供になり易く、母親が与える母乳に対して過敏になり、母親が食べる食材によっても様々な症状を引き起こすだろう。

原因として影響が強いのは、無意識に抑えている母親の感情であり、怒り、悲しみ、不安などといった様々な感情の情報（波動）が食材から母乳に転写され、そのマイナスの波動を直接子供が受ける。

感情などの影響は、目には見えないが健康にかなりの影響を及ぼしているということが治療の結果をみて良く分かる。